

同窓会だより

発行
千葉県立船橋高等学校同窓会

千葉県船橋市東船橋6-1-1
〒273-0002 TEL.0474-22-2188

印刷 (株) サラト
姫路市北条宮の町172番地
TEL 0792-84-1380

題字／小原天籟先生 写真／母校全景



母校はいま

船橋高校も今年で創立七十八周年を迎えた。「学校要覧」の記録をもとに、一九八〇年代後半から現在に至るまでの本校の歴史を眺めてみると次のようになる。

一九八六年四月に実施された普通科一学級増に伴い(全日制普通科×9、理数科×1、定時制×3)、同年三月に、視聴覚室、コンピュータ室、作法室、美術室、工芸室、家庭科室、調理室から成る新館が南館裏に竣工した。翌々年の八八年には、小体育館を含む四階建てのセミナーハウスが、九〇年には、開閉式の屋根付きプールが体育館脇に竣工、また、同年挙行された創立七〇周年記念式典にむけて、正門周辺及び中庭の整備が行われた。新しく整備された環境の中で、生徒は、勉学に、学校行事に、部活動にと励んでいる。

卒業生の進路状況を見ると、平成十年度大学合格者数は九一三名(現・浪合計)であり、依然として進学校の地位を保ち続けているが、東大合格者数が現浪合わせて一名に終わってしまったことが悔やまれる点である。今後の生徒の活躍に期待したい。

年間主要行事は、「たちはな祭」「校内弁論大会」(六月)、「県定通体育大会」(七月)、林間学級

寄稿 柴 敏行
〔県立船橋高校教諭・平成十年着任 昭和五十六年卒〕



哀悼

同窓会長

三代川 幹 雄

(昭和二十三年卒)

習志野・八千代地区保護司

本年一月下旬、我々の担任の先生が逝去されました。奥様からご連絡を頂き、級友十数名とお通

夜に参列いたしました。式は教会で行われ、我々は賛美歌に代え、先生への思いを込めて、「高き理



輝かしき伝統に栄あれ

校長

小西 紀 男

(平成九年着任)

私は集会の時に「誇り高き船橋高校の生徒諸君！」と話しかけることが多い。在校する生徒諸君が本校の輝かしい伝統を自覚しつつ成長することを願うからです。

期待に込めて現在千二百十八名の生徒諸君が学習に部活動に全力投球で立ち向かってくれています。

さて、俳人芭蕉の門弟である許六が師の俳諧を「この句不易にして流行の只中にあり」と評しています。つまり「芭蕉先生の句は伝統を踏襲しつつ流行の最先端を行く句風に満ち満ちている」ということでしょうか。

私は県立船橋高校もかくありたいと願っています。伝統を守り発展させるためには時代の変化や人々のニーズに無頓着であってはなりません。

伝統校では痛みも感じますが、「新しさ」を求めて激しく「新陳代謝」する中でこそ上辺だけではない真実の伝統が光り輝くもの信じます。

八十周年という慶賀の年が近づいてきています。同窓生の皆様方の益々のご発展を願い、変わらぬ母校愛に感謝しつつご挨拶いたします。



二〇年後の予見

全日制教頭

山本 敬 久

(平成十年着任)

想の」で始まる我々の校歌(当時の応援歌)を斉唱させて頂きました。家族の方に大変喜ばれましたが、何より八十四年の生涯を終えられた恩師に喜んでいただけたと思っております。心から、ご冥福をお祈り申し上げます。

た。改めて御礼申し上げます。ところで、八千代・市川・千葉の方々、同窓会活動を一層盛り立てるため、是非とも、奮起して支部を結成してください。お願いいたします。

最後に、皆様の益々のご活躍を祈念し、今後同窓会活動にご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、在校生徒君の文武両道にわたる活躍に大きなエールを送り、ご挨拶いたします。

私が本校に初任教員として着任したのは二七年前の昭和四六年四月、当時はまだ学園紛争の名残りが濃厚に漂っていて、生徒の政治への関心が極めて高い頃でした。

そこに専門の世界史の他に三年の政治経済の授業を担当しろということ、毎時間薄氷を踏む思いで授業にのぞんだことを思い出します。

一学期中頃、たしか人権問題をテーマとした授業の最中、いきなり教室の後方から「ナンセンス」と声をかけられ度を失ってしま

い、その声の主に放課後研究室に来るように伝えたと、彼の仲間数人も同行してきて夜遅くまで議論に及んだ、と言うよりは吊し上げにあったこともありました。

しかし、そのことがバネとなり、生半可な授業内容では生徒に申し訳ないと、先輩の先生方のアドヴァイスもいただき腰を据えて本を

読みあさり、その後の私の教師生活の礎を築くことができました。七〇年安保のただ中に育った「恐ろしき子供達」に深く感謝する次

江川さんに関する思い出の中で、彼女が週番としてクラス日誌に書いた次のような文が特に印象に残っています。「きのうと今日と化学室からいと恐ろしい臭いが漂ってきて気持ち悪い(昭和五一年一月九日)」

本来ならエステル合成の芳香のはずが、手違いで異臭となったのでしょうか、江川さんはなんと二〇年後を予見しているではありませんか。

予定の二倍近い募金が集まりました。本年は定時制の生徒諸君がスポーツで大活躍。四種目で全国大会に出場し、本校の名を全国に轟かせてくれました。本当にご苦労様でした。我々も募金集めに奔走し、

平成十年林間学級（箱根にて）



「春の同窓会」に参加を！

実行委員長

中村嘉秀（昭和三十二年卒）

平成十年春の同窓会は二月十一日、ホテルグリーンタワー―幕張において盛大に行われました。

先輩後輩が一同に会し、旧交を温め合い、また、いろいろな出会いが生まれるなど、楽しい、そして、有意義な集いであったと思います。

来年の「春の同窓会」も二月十一日（建国記念日）に開催が決定していますが、第九回卒業生（昭和三十二年卒）が幹事学年となり、実行委員を中心に準備に取りかかっています。

母校県立船橋高等学校も平成十二年には創立八十周年という節目の年を迎えますが、その前年に当たる来年の同窓会は次年度のいろいろな行事に繋げていくためにも、一人でも多くの同窓生のご参加を得て盛大なものにしたいと思っています。

暫しお仕事やご家族のことを離れ、昔の学生時代に帰って一刻話らうのも有意義なことではないでしょうか。

学友同士や先輩後輩にもお声をかけて頂き、広がりのある盛大な同窓会になってくれたらと願っています。

是非、ご参加ください。お待ちしております。

船高の歴史・補遺（五）

「原民喜」

市立習志野高校教諭

小川信雄

（昭和三十八年卒）

『千葉県立船橋高等学校七十年史』（一九九二）では原民喜（一九〇五―五二）を述べられなかった。彼は明治三八年十一月五日に広島市職町で陸海軍・官庁用達を営む信吉・ムメの七男五女の五男に生まれた。大正一二年三月に広島高等師範学校附属中学校四年を修了し、同年五月慶応義塾大学文学部予科に進んだ。中学以来、文学に親しみ、ロシア文学（ゴッゴリ、チェホフ、ドストエフスキー）を愛読し、

大学では山本健吉らと回覧雑誌などを作り、トルストイ、辻潤、ステイルナー等を読み、ダダ的な作品を作っている。またマルクス主義文献に接し、二四―五歳頃には日本赤色救援会（モツプル）に参加し、広島地区オルグとなったが、組織の崩壊で活動から離れた。昭和七年三月に慶応義塾大学文学部英吉利文学科を卒業（卒論「Wordsworth論」）

したが、昭和恐慌で就職口はなかった。八年三月、広島県豊田郡本郷町の米穀肥料問屋永井菊松・すみ次女貞恵（弟は文芸評論家の佐々木基一）と見合結婚し、東京市内に住み、短編小説を書き続けた。特別高等警察の嫌疑をうけることもあったが、九年初夏に千葉市登戸町二一―〇七に転居した。この頃から創作活動は旺盛になった。一七年一月四日に「市立船橋中学校（英語）教師（嘱託）」となり、「月手当四十円給与」で週三日通勤することになった。無免許であったため、同年一月二七日に文部省から英語免許をうけたが、一九年三月三十一日に嘱託の教師を退職（履歴書）した。結婚を病んでいた妻貞恵が九月に死去したことは大きな打撃となった。二〇年一月末に広島市職町の兄信嗣宅に身を寄せたが、八

月六日に原爆に被爆した。この体験をもとに『夏の花』（一九四七年に『三田文学』に掲載）が書かれた。翌年四月に上京したが、生活は困窮していた。昭和二十六年三月一日に吉祥寺西荻窪間で鉄道自殺をとげるまで『三田文学』、『近代文学』、『群像』に作品を発表した。

船橋中学校に関連した作品は通勤途上の点景である大神宮下駅、宮本町の坂、（桑島）家畜病院などが登場する『弟へ』（『定本原民喜全集I』青土社）などがあるものの生徒・職員の影響は残していない。彼は「極端に内気で寡黙、感受性の鋭い繊細な神経と、純潔な文学的稟質を備え、日常生活に妻なくしては生きていられない、いわば社会生活の不能者であった」（水田九八二郎『原民喜詩集』、『原爆文献を読む』、中公文庫）。

『夏の花』は飢えと死に脅かされながら「ヒロシマ」の忠実な記録を書きつづったもので、最も早く原爆体験をとりあげたものでもあった。また「鎮魂の歌」として「すべての原爆犠牲者の霊に捧げ」たものであった（山本健吉）。広島原爆ドーム東寄りに「原民喜詩碑」が建っている。現在、新潮文庫で『夏の花・心願の国』（大江健三郎解説）を読むことができる。

...

...



ワールドカップを戦って

サッカーワールドカップ日本チームコーチ

小野 剛

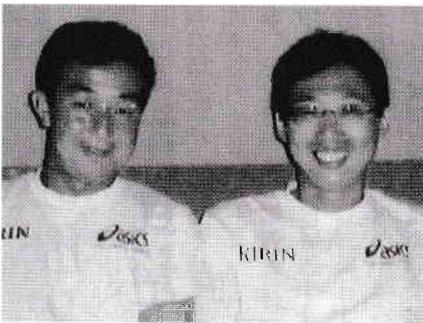
(昭和五十六年卒)

った。しかし、それはただ単に「自信を持って」と言えはもてるものではない。自分たちのサッカーを確認し、ある部分は新たに構築し、そしてさらにそれが実感できる形で現れるようになって、はじめて沸いてくるものである。そしてその少しの自信が、さらにプレーを改善していき、その流れをやつとの思いで手にした我々は、ついに決戦の場となるジョホールバルでのイラン戦まで駒を進めることができた。

グループ内での首位こそサウジアラビアに明け渡したイランであったが、アリ・ダエイ、バゲリ、アジジとヨーロッパで活躍する選手を擁したその破壊力は間違いなくアジアNo.1と呼ばれるにふさわしいものであった。

しかし、私、岡田監督ともに勝つ自信はあった。それは人念なスカウティングの結果、勝つシナリオが見えてきたことも確かであるが、それ以上に一人一人の選手の向上、そしてチームとしての向上がその要因である。正直言つて私は選手たちの能力の高さに驚いていた。これはサッカーのプレーのことではない。彼らのプレーが優れていることは知り尽

くしている。我々の要求に対する理解力、そして吸収力の高さにである。我々は、やらなくてはならないこと、課題が多く存在しており、それをこく限られた期間の中で克服していかなくてはならなかった。限られたトレーニングの場で、中には実際にトレーニングする時間とれずミーティングで説明するだけになってしまったものもあつたが、その中で彼らはしっかりと吸収し、ピッチの上で表現していったのである。サッカーのうまい選手は日本の中にもたくさんいる。そのような中で彼らが代表選手として生き残つていったのは、まさにそのような吸収力の高さのなせる技であろう。



岡田監督(右)と筆者

試合は、中田からのパスを受けたゴン(中山)のゴールで先制した。相手のディフェンダーの特徴を利用するために前日に練習した動きそのままの形からのゴールだ。ここにも彼の吸収力の高さが伺われる。後半に入ると、アジジ、ダエイと立て続けにゴールを奪われ、非常に苦しい展開になった。それまでの日本だと一気に崩れてしまうパターンである。しかし、彼らは苦しい予選のメンタル面でも成長していた。井原を中心としたディフェンス陣がそこを踏ん張ると、交代で入った城、ロペスが立て続けにチャンスをつかむ。これも狙い通りの形からである。そして再び中田からピンポイントのパスが城へ。城のマークをはずすための動き、中田の一瞬の隙を逃さないパス、いくつかの素晴らしいプレーが組み合わさつたゴールである。岡野のウィニングゴールが決まった瞬間、それは我々にとって「ワールドカップ」という新しい闘いの始まりを告げる瞬間でもあつた。

クライフ、ベッケンバウアーといったスーパースター達にაცოგれ、必死にボールを追いかけていた少年時代。そのころ、ワールドカップは遠い世界の存在であり、ましてや日本のワールドカップ出場は夢、また夢の世界であつたような記憶がある。中学、高校とサッカーに明け暮れるうちに、いつしか「ワールドカップ」という夢は自分の中でますます膨らみ、大学進学を決める際はサッカーがすでにメインとなつていった。選手としての自分に限界を感じてからは、指導者としての自分に目標をしばり、大学院に進み、海外での研修を重ねた。母校の筑波大学の助手を経て、成城大学の講師、世間的にみれば十分に満たされた環境ではあつただろうが、サンフレッチェ広島からオーファーがあつた時、サッカー界に身を転じることに関してはなんらためらう余地はなかつた。それから2年、「ワールドカップ」という夢は現実のものとなり、必然的に目標は、「その中で勝つ」ことへと変わつていった。

今までの対戦相手とは明らかにレベルが違う。対戦相手の分析を進めるにしたがつて現実には次第にはつきりしてきた。「我々との間に明らかに存在する差は認識しておかなくてはならない。しかし、「同じ人間が同じルールで戦う競技であり、恐れず堂々と戦いたい」。

この2つを両立させるための唯一の方法が「個々での戦いから、組織での戦いに持ち込む」であつた。そして、それを具現化するために我々に与えられたものは、限られた期間でのトレーニングだけである。チームづくりの過程は、ある意味では様々なジレンマとの闘いであつた。相手を崩しにかかるためには、どうしてもある程度の人数をかけなくてはならない。しかし、それはデ

恩師探訪

船高十八年の思い出

青柳正吾先生



イフェンス面でリスクを負うことになる。さらに、ディフェンスを固めてくる相手に対しては、中盤のビルドアップの中で敢えて一旦相手に食いつきにこさせ、裏のスペースを狙つていかないと崩せない。しかし、そこでのミスは致命的になることを覚悟しなくてはならない。アルゼンチン、クロアチアの鋭いカウンターを避けるためには、中盤でのビルドアップをある程度あきらめなくてはならない。しかし、速いテンポのパス回しによる中盤でのビルドアップからの攻撃は、ともすると日本が唯一世界に誇れる部分かもしれない。この部分だけは結果を恐れず大切にしたい。

我々の闘いは、これらジレンマの中でギリギリのバランスをとりながら、チームを強化していくことであつた。そして選手も再び期待に応えてくれ、着実に成長していったと思う。ワールドカップという舞台の中

で、選手たちは相手の良さを消しながらも自分たちの持ち味を発揮し、本当によく戦つてくれた。結果として1勝もさせてあげることができなかった。その点では悔しい思いで一杯である。しかし、我々の半年に及ぶ闘いには、ある種の満足感を持っている。

世界の強豪との初めての真剣勝負。この中から、我々は、多くのことを学ぶことができた。ワールドカップという舞台に足を踏み入れた今、強豪国の中で肩を並べ、さらにそれを追い抜いていくための新たな闘いが始まつた。

今回は、昭和二十四年に赴任され、柔道部顧問をはじめ、母校に数々の功績を残された青柳正吾先生にご寄稿頂きました。

頂いた賜と思っております。因みに仕えた校長は山口久太、下村弘毅、内田篤夫、伊藤秀三の四氏、教頭は内田篤夫、宇野良和、松戸節三、村上治、宇津木太重の五氏、いずれも立派な大物でした。

船高生の気質

昭和二十年代の船高の校舎はお世辞にも綺麗とは言えず、一度風が吹けばオンボロ教室に砂埃が積り、雨が降れば狭い校庭に水が溜り、満々たる湖水となる。特別教室も体育館もなく、施設は全く不十分でした。然し生徒の気質は明朗にして自由、バンカラにして覇気に富んでおりました。山口校長は口癖のように「明るい日本一の学校」、「運動部は全国制覇」と朝会でおっしゃられておりました。二十年代後半から三十年代にかけて、船高は無限の若い力を持つ生徒と個性豊かな特徴ある若い教師を擁し、各自の特性を洞察、引出

体育行事の回想

昭和二十六年、男子は習志野校舎往復一万米、女子は津田往復五千米の全校マラソン大会が始まりました。やがて、交通量が増加し、昭和三十七年に東大検見川グラウンドでのクロスカントリー大会へと移行しました。

また、体育行事の圧巻は何と言っても「体育祭」でした。昼休みの前の二、三年生の棒倒しで盛り上げ、午後一番は一時間の仮装行列でした。スケールは大きく、ユニークな出し物、奇抜なものも多く地域の名物となり、クラス対抗仮装へ移行し

体育クラブの活躍

二十年代、船高のクラブ施設は零陸上、体操部は他校の施設を借用して練習して回りました。施設は不十分とも、生徒の熱意は旺盛で、昭和二十六年陸上部総合優勝、翌年春、野球部が成田高を二対零で破り優勝、同年バレー部も九連勝で優勝。昭和三十年には、卓球部関東大会優勝、体操部も団体徒手優勝、関東三位と健闘。船高体育クラブは臍下で名声を得、数々の栄光を手に入れました。

柔道部顧問として

戦後廃止されていた学校柔道が復活したのは昭和二十五年。翌年のクラブ発足から十六年間務めた柔道部顧問として部員と精進した思い出は尽きません。午前六時、霜を踏んで



のランニングから冷たい雪の上の寒稽古、納会の汁粉作り、夏の合宿訓練、昭和三十三年念願の関東大会出場、以後三回同大会に出場しました。クラブと進学の両立に悩んだ三十年代、船高でレギュラーになれず大学で選手として活躍した部員たちの顔が彷彿として浮かんできます。十六年間共に汗を流した百五十余人の同志の顔が走馬灯のように去来する昨今であります。

同窓会事業報告

船橋高等学校同窓会は、毎年二月十一日に春の同窓会を、八月第一日曜日に通常総会を開催しており、本年も、多数の会員の皆さんにお集り頂きました。会の模様と総会での承認事項をご報告いたします。

平成九年度春の同窓会

平成九年度の「春の同窓会」は、八十周年も近いということで、実行委員長の高川さんに大変はりきっていただきまして、いつもより多く約二百八十名もの方に参加していただきました。会場もそのために広い所をといたことで、二十八年卒業の林先輩の経営されているグリーンタワーホテルで開催いたしました。会場は、船橋市内でやって欲しいという意見もあったのですが、平成十年度は「八十周年記念事業」の欄でもお知らせしているとおり、今までの十倍以上の二万三千人にご案内しましたので、より広い会場で開催するための第一歩として、林さんに無理をお願いして、大変協力していただきました。誠にありがとうございます。また、お祝いの曲も、林さんの無理をお願いして、大変協力していただきました。誠にありがとうございます。また、お祝いの曲も、林さんの無理をお願いして、大変協力していただきました。誠にありがとうございます。



平成十年たちばな祭

す。出席していただいた皆さんには喜んでいただいた点、不満な点もあったと思いますが、我々実行委員と事務局もすぐに反省会を開き、次回はもっと良い会にしていきたいと思っております。平成十一年二月十一日の春の同窓会のご案内のようにグリーンタワーホテルでの開催が決まりましたので、是非、一人でも多くの方のご参加をお待ち申し上げます。

平成十年度通常総会

平成十年度通常総会は例年どおり八月第一日曜日（本年は二日）に行われました。船橋市長藤代孝七氏にもご多忙の中出席を賜り、熱のこもった総会となりました。今回は、事務局会議、常任理事会等準備のため、七回も打合せを持ち、八十周年をどうするか、若い人達に参加してもらおうにはどうしたらいいか等論議を重ねての開催となり、多くのクラス幹事（特に最近の卒業生）にも呼びかけ、結果として若い同窓生の参加も増やすことができました。その中から寒竹氏、野田氏（共に昭和五十一年卒）と坂間氏（昭和五十五年卒）が常任理事に推薦され、承認を受けました。これからは、昨年常任理事に専任された高橋氏（昭和四十年卒）、満留氏（昭和四十九年卒）と一緒に若い同窓生の組織作りを進めて頂きたいと思っております。



平成十年たちばな祭

また、総会に提出された平成九年度事業、決算報告及び平成十年度事業、予算案も原案どおり承認されましたので、併せてご報告致します。

なお、八十周年記念事業についても準備段階に入り、多くの方々に母校の八十周年を祝っていただけるよう計画が進められることも確認されました。会員の皆さんにも、記念事業等についてご案内申し上げてまいりますので、ご協力お願い申し上げます。

事務局情報

同窓会の事務局は母校に置かせて頂いております。とは言え、事務局の構成員は、不定期に参加して、事務を進めています。そのため、船高出身で現役の船高教諭、湯目先生（昭和四十四

年卒）、鳥飼先生（昭和五十二年卒）を中心に事務局理事としてご負担をかけておりました。本年度は、両先生に加えて、柴先生（昭和五十六年卒）にも加わって頂いております。しかし、先生方に大きな負担をおかけする訳にはいかないので、保津氏（昭和三十一年卒）、植草氏（昭和四十年卒）に会計をお願いし、また、同窓会だよりの編集には、新たに、島崎氏（昭和四十八年卒）、鈴木氏（昭和五十一年卒）、山田氏（平成二年卒）の協力も得て、事務局の戦力を強化しております。

会員の皆さんには、事務局一同から日頃のご支援に感謝申し上げますと共に、より一層のご支援、ご協力をお願いする次第です。



全国大会出場の野球部（定時制）

母校の現況

●全日制の部活動の状況●

文章内の番号は以下の大会の種類を表しています。

- ①平成九年度新人大会
 - ②平成十年度関東大会予選
 - ③平成十年度インターハイ予選
 - ④その他
- (①から③は県大会以上のものを掲載)

〔運動系部活動〕

- 野球③夏季大会三回戦進出
- サッカー③二回戦進出
- 柔道②③男子団体二回戦進出
- ③女子団体二回戦進出
- ①女子五二キロ県ベスト8
- 剣道②男子団体三回戦進出
- ②女子団体二回戦進出
- バスケット男子
- ②③二回戦進出
- バスケット女子③一回戦敗退
- 卓球①県ベスト16
- バレーボール男子
- ③県ベスト16
- バレーボール女子
- ②③一回戦敗退
- 水泳①③水球県初優勝
- ②水球県優勝、男子個人メドレー四百メートル四位、男子個人メドレー二百メートル五位、四百メートルリレー五位、八百メートルリレー四位(総合四位)

バトミントン男子

- ①ダブルス県ベスト32、シングルス県ベスト32
- ②団体県ベスト32
- ③ダブルス県ベスト16

バトミントン女子

- ②団体県ベスト32
- テニス男子①②③一回戦敗退
- テニス女子②二回戦進出

陸上

- ④船橋市高校テニス選手権女子シングルズ優勝
- ①女子八百メートル準決勝進出
- ③男子4×400メートルリレー準決勝進出、女子四百メートル準決勝進出、八百メートル準決勝進出

ソフトテニス男子

- ③団体戦二回戦進出、個人一回戦進出
- ソフトテニス女子
- ③団体三回戦進出、個人二回戦進出

ワンダーフォーゲル

- ②県ベスト8(関東大会出場権獲得)

〔文化系部活動〕

- 演劇 春期地区大会出場、たちばな祭・予餞会等での公演
- フォークソング たちばな祭・予餞会への参加
- 合唱 千葉県合唱祭・たちばな祭参加、定期演奏会(三月)

祭参加、定期演奏会(三月)
茶道 第七回高文連地区交流茶会参加

生物 たちばな祭での研究発表
自然科学 日本学生科学賞一等賞「貝殻を用いたアセチレンの製造法の研究」

クイズ研究 高校生クイズ一回戦六問目進出、関東クイズ連合オープン大会四位

●定時制の部活動の状況●

六月に行われた定時制・通信制総合体育大会の結果、今年は野球部、男子バスケットボール部、サッカー部、柔道部の四つの部活動が全国大会に出場する快挙となった。

一昨年に引き続き、現メンバーでは、二度目の大会出場となったバスケット部は、八月五日東京体育館で三重代表みえ夢学園に快勝したが、六日駒沢体育館での兵庫代表尼崎南高校に惜しくも敗退した。



また二十四年ぶりの出場となった野球部は、十一日府中球場での群馬代表高崎工業に対し九対六で逆転勝ちし、見事に神宮に駒を進めた。しかし翌十二日は神奈川代表湘南高校に大差で敗れ、全国大会の壁の厚さを痛感した。

同じ十二日に静岡県清水市ではサッカー部が広島代表海田高校、十三日には兵庫代表御影工業、十四日には神奈川代表横浜商業に連戦連勝し、五年連続出場の高さと意地を見せた。しかし惜しくも準決勝では東京代表立川高校に0対2で敗れ、三位にとどまった。

八月二十六日には講道館で開かれた柔道全国大会は五年ぶりの出場であった。団体戦は予選リーグは沖縄県・福島県に順調に勝ち進んだが、決勝トーナメントでは、愛知県に対し2対3で惜敗した。また、個人戦では中量級出場の木下雅人(四年)

が二回戦で敗退した。いずれも善戦し、今年の夏は終わったといえる。



●ご声援御礼●

定時制教頭 山崎 保正先生
定時制では、二十四年ぶりの軟式野球部をはじめとして、サッカー部、男子バスケット部、柔道部が総体で優勝し、全国大会出場権を得ました。

一度に四部の派遣という幸いが重なり、準備が思うに任せませんでした。定時制教育振興会の役員の方々を中心に支援募金を募っていただけました。同窓会をはじめ五百四十件を超える皆様方から約三百万円の御厚志をいただき、厚く御礼申し上げます。

選手たちは心置きなく出発し、持てる力を十分に発揮して二年連続全国第三位となったサッカー部を筆頭に、全ての種目で初戦を突破しました。

神宮球場、清水市営サッカー場、東京体育館、講道館とそれぞれの晴れの舞台で、いい思い出と、今後に向かつての目標と闘志を得ました。お寄せいただいた温かい御支援は本校定時制にとっても大変な励みとなりました。

二学期が始まり各部活動の選手たちは、来年に向けて頑張っております。



八十周年記念事業に向けて

同窓会事務局長

矢野 嘉朗

(昭和三十八年卒)

母校は、平成十二年に創立八十周年を迎えます。これを記念して八十周年記念事業が実施される予定です。高校主催のものは、校長をはじめとする諸先生方、PTA役員そして同窓会役員が中心となって現在計画を進めています。

同窓会としても記念事業を予定しています。昨年の同窓会だよりでもお知らせしましたが、主なものとしては同窓会名簿の発刊です。同窓会としては、学校から要請があつたときいつでも応じられるように、常日頃から同窓の親睦を図り、組織作りを進めることが大事だと考えています。名簿はその基礎となるものです。

これまでの同窓会だよりは七十年記念事業でご寄付をいただいた約二千名の方を中心に発送しております。しかし、自分には送られないというご意見も多く、今回は同窓会名簿の基礎資料作りも兼ねて、二万二千名の方に送付しています。

そこで、皆様にお願ひがありま

て、同封の振込用紙で、一口千円以上振り込んでいただきたいのです。

また、親睦の意味では、春の同窓会も大事な行事なのですが、昨年から出席できない方のご意見を、「おたより彼れ是れ」の中でそのまま載せて、参考にさせていただきます。

ご意見でも建設的なものであれば、参考にさせていただきます。ご意見をお待ちしています。

春の同窓会もいろいろなご批判があるようですが、是非ご出席いただいで、その上でご意見をいただければと思います。

若い方の出席が少ないので、若い方に声をかけていただくと共に、会場や会費についての具体的なアイデアを同窓会事務局までお寄せ下さい。

春の同窓会も、八十周年記念事業も、一人でも多くの方に参加していただき素晴らしいものにした

お知らせ

同窓会名簿について

現在同窓会名簿を作成しておりますが、電話での問い合わせは一切しておりません。不審な電話があれば同窓会事務局(県立船橋高校内) 電話〇四七四(二二二)二二八八までお問い合わせ下さい。

「同窓会だより」の新しいタイトル募集

今回で十一回を数える同窓会だよりですが、この度、新しい名称を募集することになりました。皆様のアイデアを、お寄せ下さい。

「同窓会だより」の記事募集

同窓会だよりでは、皆様からの記事を募集しています。特に、学年会を開催する予定などがありましたら、同窓会だよりに掲載したいと考えていますので、同窓会事務局まで情報をお寄せ下さい。他にも同窓会だよりに掲載してほしい記事がありましたらご連絡下さい。

総会の日程について

同窓会の通常総会は例年八月の第一週に開催されています。皆様に参加していただくために、開催時期を再考したいと考えておりますので、ご都合の良い時期などを、お知らせ下さい。

編集後記

七月から新たな委員で編集会議を積み重ね、やつとのことです。第十号を発行することができました。ご寄稿頂いた同窓生、先生、ご協力ありがとうございました。

さて、事務局長から同窓会だよりの編集と、誌面の刷新という課題を仰せつかり、奮闘したものの、満足のいく出来栄には程遠く、改めて編集の難しさを思い知らされております。何分、素人ばかりですからご容赦ください。と、言う訳で、編集に携わった委員の内9名の声を掲載します。ご笑覧ください。(昭和四十八年卒・S)

●何をやっても三日坊主の私が、今、凝り始めたものがある。「パングクリ」と「パソコン(?)」である。この奇妙な取り合わせ。最も苦手な分野に少しずつだが確実に夢中になっていく気配。同窓会事務局に首をつっこんで、はや×年。いつの間にか「虜」になり逃げ出せなくなっている。(昭和三十年卒・T)

●子供もある程度、手が離れ同窓会事務局の仕事に二つ返事でした所、某事務局の仕事が始まり、今年年間事業報告、年間予算等の言葉が、日常用語に!!人生判らぬものです。(昭和四十年卒・U)

●異常気象と言われながらもいつの間にか涼風が吹き、紅葉が待たれる今日この頃。母校の公孫樹を横目で見ながら……ふと思出ししたのは、原稿のこと。(昭和四十四年卒・Y)

●今年の夏は県船のOB会の大きさと温かさを改めて目の当たりにした思い出深い夏になりました。たくさんの方の応援ありがとうございました。(昭和五十四年卒・M)

●今年4月に教諭としてひさしぶりに母校に戻ってきました。もう36歳にもなろうというのに、この職場ではバリバリの若手です。おかげで雑用に命をかける毎日です。(昭和五十六年卒・S)

●初めて携わったためなかなか思うようにいきませんでした。皆様に高校生の時を懐かしんでもらえれば幸いです。(平成二年卒・Y)

●同窓会書記局員の末席を許されて10年になります。夏冬二度の同窓会の受付のお手伝いが唯一の貢献で常々申し訳無く思っています。(昭和三十六年卒・R)

●同窓職員として5年、同窓会活動に携わり、繁雑な作業にとまどい、苦しむ事もあつたが、同窓生一同に会する喜びには、変え難し、集まりし、同窓の顔は、過ぎ去りし、あの日にもどって行く。なつかしい便りをお送りします。(昭和五十二年卒・T)